



ダブル・メジャーの時代

チャールズ・アイブスに学ぶ保険ビジネスと音楽 趣旨説明

山内恒人
2015年1月17日

本日の企画についての概要

「ダブルメジャー」教科書的には

- 二つの専門性をもつこと
- もっと明確には二つの学位をもつことをいう

今日はこれを就職（職業）という題材に敷衍したい

二つ以上の側面（専門）を持つこと

- 両方ともその人にとっては生きていくうえで重要な役割を持っている
- 世間の評価とは無縁である
- 趣味との境界線はあいまいで構わない

学術的な
ダブルメジャー

人生智としての
ダブルメジャー

- ◆ 人生の選択に悩む学生のために何らかの考えるヒントを提供したい
- ◆ チャールズ・アイブスは「保険」という当寄付講座のタイトルと整合性のある恰好の対象だと思われる

本日の企画についての概要

就職は個人の夢や希望を捨てることであるのか

- 時間の制約という観点からはその通りかもしれない
- しかし、アクティビティを制約するものは本来存在しない（時間はかかるかもしれないが）
- 社会的なリアリティを拡大するともっと楽になる

人生智としての
ダブルメジャー

社会的なリアリティの拡大

豊かな人生(?!)

もちろんリアリティの拡大はダブルメジャーだけではない

地元の自治会

ボランティア活動

留学

アルバイト

チャールズ・アイブス

西暦	年齢	アイブス年表	同時代の出来事
1874	0	10月20日 C.E. Ives 生誕 コネチカット州 ダンプリー	ホルストとシェーンベルグも同年生誕
1897	23	第1交響曲 完成	1896 ブルックナー死去 (9番未完)
1898	24	Yale大学 卒業 Mutual Life Insurance Co. で働き始める	G.ガーシュウィン生誕
1899	25	Raymond & Co. に移る ここでJ.S. Myrickと出会う	1900 プッチーニ トスカ
1904	30	Trio (violin, cello, pf) ただし完成は1911	1905 日露戦争 特殊相対性理論
1907	33	Ives & Co. 設立	1906 アームストロング調査
1908	34	Harmony Twichell と結婚	ラヴェル スペイン狂詩曲
1909	35	Ives & Myrick 設立 (Mutual Lifeの総代理店)	ラフマニノフP協3番 マーラー9番
1910	36	第4交響曲 1910-1916	1912 明治天皇崩御
1914	40	ヴァイオリンソナタ第4番 1914-1915	1913 ストラヴィンスキー 春の祭典
1922	48	Broadway を Ives & Myrick bulletins に掲載 114歌曲集	ソビエト連邦成立
1930	56	Ives & Myrick を引退 (前年にはIves & Myrickは49百万ドルの新契約を達成)	1929大恐慌
1942	68	シゲティー(vn) フォルダシュ(pf)でヴァイオリンソナタ4番をカーネギーホール	バルトーク 管弦楽のための協奏曲
1946	72	ルー・ハリソン指揮により第3交響曲 カーネギーホール	1945 第二次世界大戦終戦
1947	73	第3交響曲によりピューリッツァー賞受賞	
1948	74	オハイオ州のBaldwin-Wallace Uni.でTrio初演 (The Elysian Trio)	1948 極東軍事裁判結審
1951	77	バーンスタイン指揮により第2交響曲 カーネギーホール	1949 メシアン トゥランガリラ交響曲
1954	80	5月19日 NYで死去 その前月 A. ドラティによって休日交響曲演奏	黛敏郎 饗宴 伊福部昭 ゴジラ

チャールズ・アイブス

- 元来作曲家を目指して大学で音楽を学んでいた
- 大学卒業のときに音楽では生活ができないことも悟る
- 生命保険会社に偶然入る
- 生命保険販売で大成功を収める
- 作曲家（音楽家）としての活動も忘れていない
- 作曲家（音楽家）として認められるのは晩年（70歳）からである

- もちろんアイブスは類まれな才能を与えられた人である
- 大変有能なビジネスパートナーにも恵まれた（ジュリアン・マイリック（後述））
- そういった意味では幸運な人ではある

- 彼は自らの作品がいかに演奏されないかということも分かっていた（世間の評価が悪いことは知っていた）
- 作品を聞いてみればわかることだが、極めて視野の広い、考えようによっては前衛的といえる作品群を構成した

- 生命保険ビジネスではニードセールスと現在言われる方法を1900年代に展開した
- 現代でもその思想は流れている
- 生命保険の世界にも変革を促した人物である

アイブス関連資料

現在のウィキペディア チャールズ・アイヴズの一文

1899年から1906年まで、代理店Charles H. Raymond & Co.に入社するが、1907年、同社の倒産後に、友人Julian W. Myrickとともに自らの保険会社Ives & Myrickを設立し、引退するまで副社長を務めた。

この部分だけでも誤りまたは怪しい部分

1899年から1906年まで、（**ミューチュアル・ライフの**）代理店Charles H. Raymond & Co.に入社するが、1907年、同社の倒産後に友人Julian W. Myrick（**Julian S. Myrickの誤り**）とともに自らの保険会社（**これがしばしば間違われるが、アイブスが作ったのは代理店である保険会社ではない**）Ives & Myrick（この時点ではIves&Co.で1909年にIves & Myrickが**成立している**）を設立し、引退するまで副社長（**パートナーであるから社長でよい。この副社長の表現はMyrickが後日親会社であるミューチュアル・ライフの副社長を務めたことと混同しているのではないかと思われる**）を務めた。

アイブスのメモはアイブス資料の基本であるが、その年数や年齢には2～3年の違いは平気で存在しているので注意が必要

アイブス関連資料

(1)



Charles Ives was born in Danbury, Connecticut on October 20, 1874. The son of a local
church warden and band leader, ^{with a background in music.} he died in New York
City on May 19, 1954. Ives ^{was} the first American composer
who wrote music out of the area of identification
with the New England Transcendentalists, European
and Russian ^{music}. ^{His} music has universal appeal, ^{but}
its roots are deeply founded in American ideals.

Despite Ives' background in a small-town
boy, he was not the primitive 'composer sometimes
pictured. His ^{musical training} was completed at Yale
University where he graduated in 1896. In order to retain
complete artistic freedom, he decided to leave his
living in the business world and thereupon embarked
on a hardscrabble career, ^{as} insurance agent by
day and composer at ~~other~~ other times.

The major works of ^{Charles Ives} ^{include} his
major works ^{written} ⁱⁿ the ^{twentieth} ^{century} ^{and} ^{published} ^{between} 1896 & 1916. ^{None}
^{of} ^{these} ^{works} ^{are} ⁱⁿ ^{his} ^{later} ^{works} ^{from} 1920. ^{Musical}
critics might not have known of his existence
if he had not been able to pull off at his own
expense a collection of 114 Songs and ^{other} ^{musical}
Songs, a ⁵⁰ ^{minute} ^{piano} ^{work}. ^A ^{few}
isolated performances ^{took} ^{place} ^{during} the Twenties. But
it wasn't until 1932, when Ives was almost
sixty, ~~that~~ ^{his} ^{work}

アイブス&マイリック



The Office of Ives & Myrick Insurance Agency, at the corner of Nassau and Liberty Streets, NY

アイブス&マイリック



Ives & Myrickの事務所の様子(1918年頃)



Battery ParkでのIVES, Myrickの語るところによると1913年ごろではないかと

アイブス&マイリック



Julian Southall Myrick (March 1, 1880-January 4, 1969)

アイブスのビジネスパートナーであり全米におけるテニスのプロモーターでもありました。マイリックはノースカロライナに1880年に誕生し1898年に生命保険の受付事務員として保険会社に勤務します。1906年に同僚のチャールズ・アイブスと保険代理店を設立します。これは1909年にはアイブス&マイリックとなって、生命保険業に貢献します。1927年には生命保険アンダーライティング学院 (The American College) を設立します。

最後には、親会社のミューチュアル・インシュランス・オブ・ニューヨークの副社長にまでなります。彼も二つの専門がありました。一つは生命保険もう一つはテニスです。

マイリックはテニスのプロモーターとして特に輝かしい貢献をします。1915年から1917年までフォレストヒルズのウエストサイド・テニスクラブ会長をし、今日USオープンとして知られるUSナショナルチャンピオンシップをそこに誘致するなどの活動を行います。またUSローンテニス協会の会長もします。

1920年からはデヴィスカップの会長し、1924年にはウィンブルドンでKing George, Queen Mary そして後にGeorge VIとなるヨーク侯に謁見し、その帰途にはサンセバスチャンでスペインのQueen Victoriaを相手に混合ダブルスを行っています。

テニスに関する諸々の功績によって1969年にはテニス界の殿堂入りをしています。

アイブス&マイリック

西暦	新契約高	西暦	新契約高
1909	1,600,000	1921	24,200,000
1910	2,200,000	1922	28,100,000
1911	4,300,000	1923	32,000,031
1912	5,700,000	1924	29,880,085
1913	6,100,000	1925	33,490,371
1914	7,700,000	---	---
1915	7,400,000	1927	38,097,000
1916	11,400,000	---	---
1917	15,200,000	1929	49,000,000(全米最大)
1918	15,000,000	1930	アイヴズ引退
1919	22,500,000		
1920	28,100,000		

一部資料が取れなかった部分がありますが1929年の営業成績は全米最大を記録します。1928年1月23日のNew York Herald Tribuneでは「ミューチュアル・ライフ・インシュランス・オブ・ニューヨークの総代理店アイブス&マイリックは1909年の1,600,000ドルから1927年の38,097,000ドルまでの新契約高に至った。純利益は4,415,000ドル（1926年）である。これは、勤勉と進取のアイデア、組織と事務効率の良さを物語っている。この国最大の総代理店の一つである」と伝えております。

アイブス&マイリック

総代理店名	年間新契約高（百万ドル）				
	1917	1918	1919	1922	1923
Ives & Myric (Mutual Life)	15	15	23	25	33
J. I. D. Bristol (Northwestern Mutual)	13	...	23	20	31
L. A. Cerf (Mutual Benefit)	13	13	21	29	27
Mowry & Petterson (AEtna)	11	20	...
Charles B. Knight (Union Central)	10	10	16	25	35
Charles Kederick (New York Life)	8	...	17	17	...
Robert J. Mix (Prudential)	7

1917年から1923年の間ニューヨーク市所在7大総代理店のほぼトップの座を占めておりました。下記はJ.O.スタルソンという人が書いた「アメリカにおける生命保険マーケティング発達史」（翻訳刊・明治生命相互会社1982年）799ページからの抜粋です。

その後、アイヴズは1930年に56歳でアイヴズ&マイリックを退社します。一方、マイリックは生命保険の世界に残り、空前の出世を果たし、1941年にはミューチュアル・ライフの副社長に就任します（このときマイリックは61歳でした）。

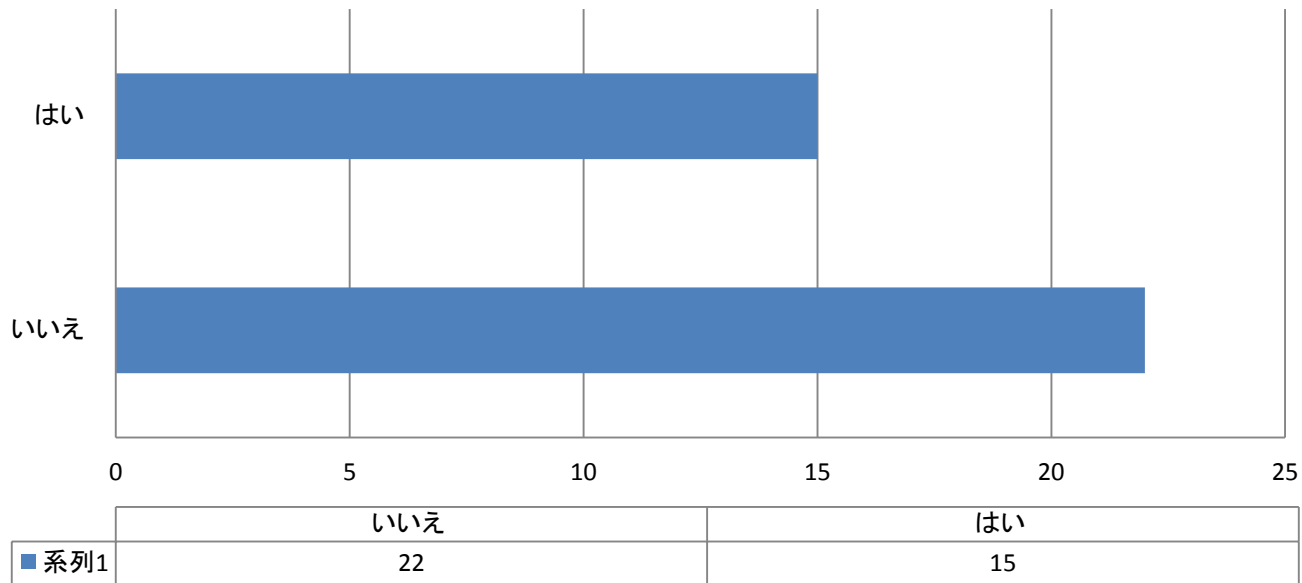
今回のアンケート

- 目的
統計的な処理を施す、ということではなく、ダブルメジャーについて意識を持ってもらうための、ウォーミング・アップの為にを行いました
- 回答数（2015年1月13日）
社会人 37
学生 17
ご協力いただいた皆様にこの場を借りてお礼申し上げます
- 個票につきましても特定の大学名あるいは個人名を削除すれば特段の差障りはないと思いますのでこの場のペーパーとしてご提供いたします
(OLISのHPにどのように掲載するかは検討中です。掲載しない可能性もあります)

アンケートから

社会人の回答

7. 生まれ変わっても現在のご職業(あるいは同じご専門を)をされていると思いますか

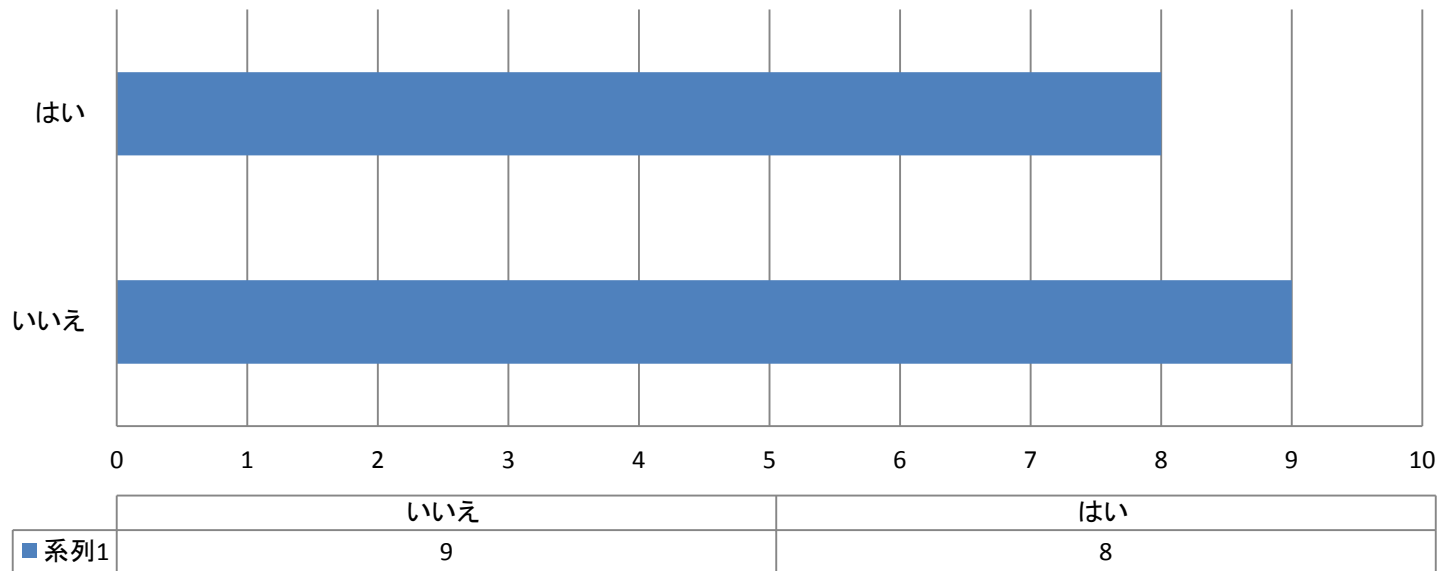


来世でも同じ仕事をしたいという人の数が40.5%あることに驚く。それほど職業適性が高いということの意味するのかどうか、これは研究課題である。

アンケートから

学生の回答

4. 生まれ変わっても現在の専攻を大学で選んでいますか

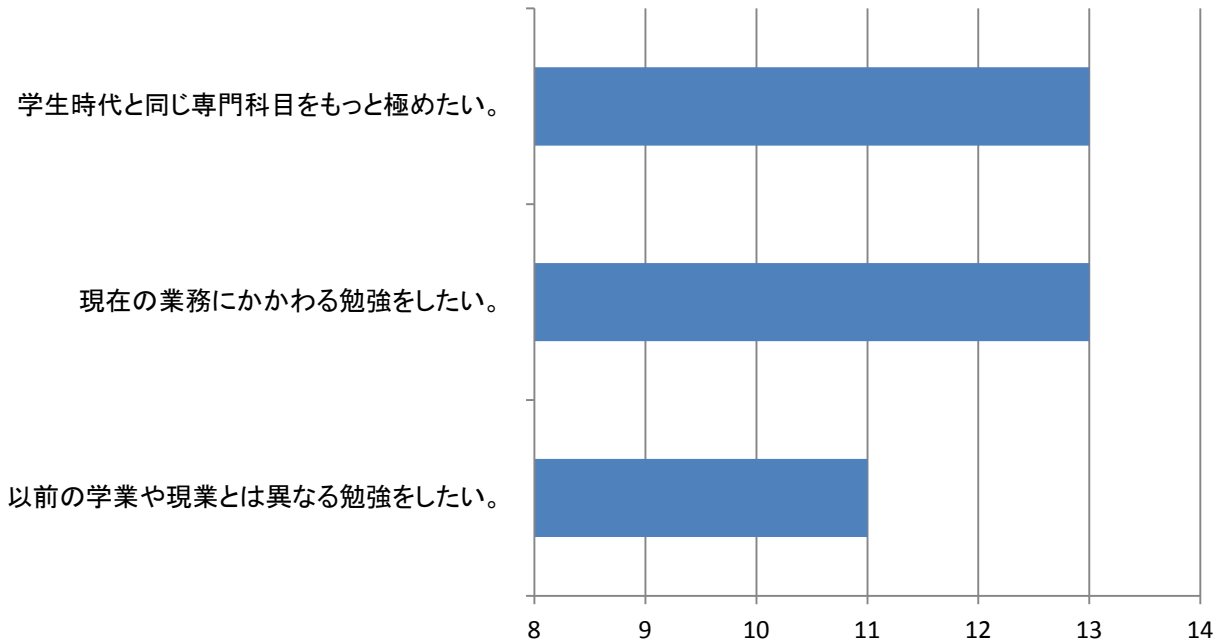


そんなに現在の学業が好きなのかと驚いた。そうならばもっと成績が良くてもよいはずだが……。

アンケートから

社会人の回答

6. もう一度学生に戻ることができるとしたら



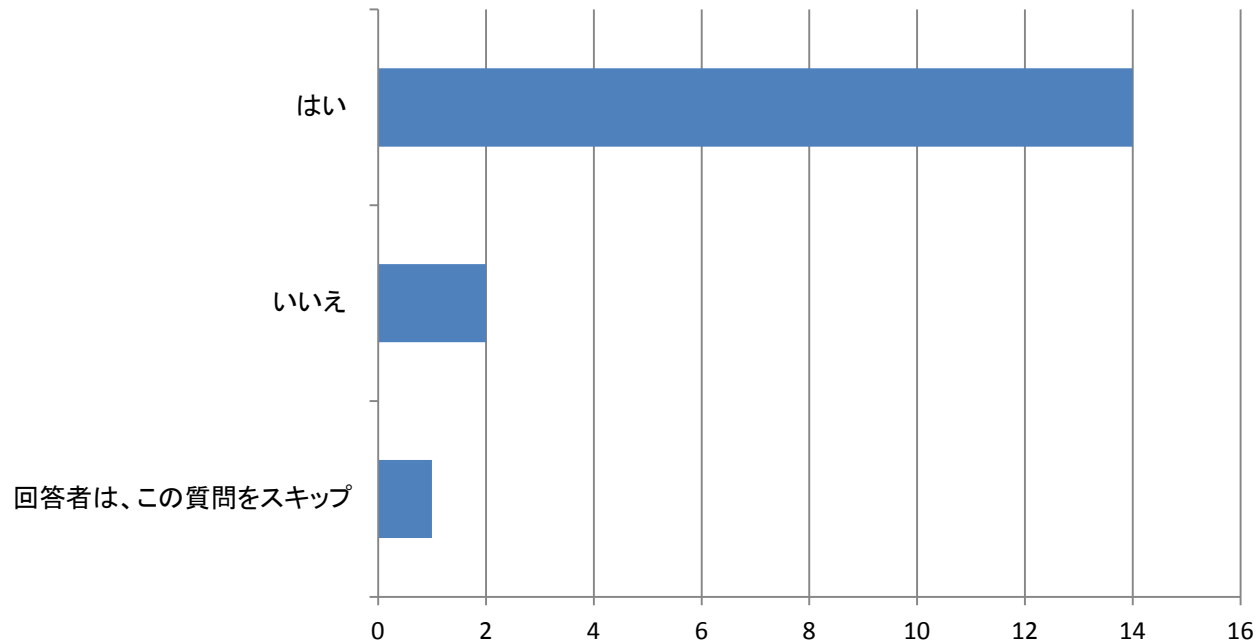
この回答をスキップする人はいなかった。本日お集まりの方々の勉強意欲は高い**かもしれない**。

再教育の可能性もこのあたりに潜んでいる（今日のテーマにも少し関係する）

アンケートから

学生の回答

5. 総じて、現在の専攻(学部など)を選んだことには満足している

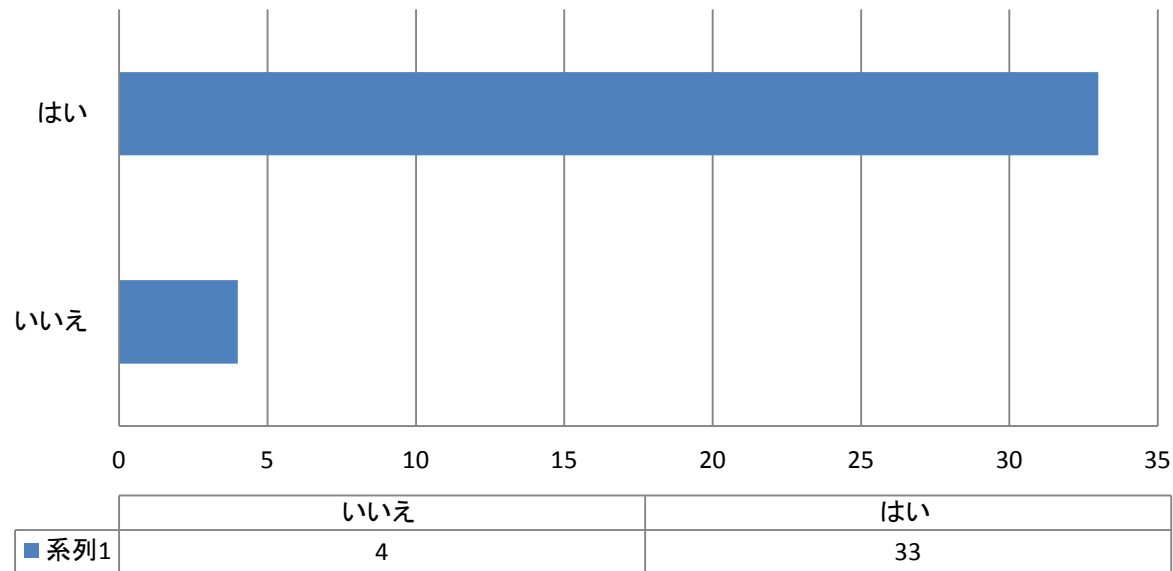


教員の皆さんは安心してよいかもしれない。学生の満足度は高い

アンケートから

社会人の回答

8. 総じて、現在の職業には満足している



この満足度の高さには驚く。これならば酒場で毎晩聞かされるグチは一体何に起因するのか

本日

1. 慶應義塾大学の片山杜秀教授から「現代作曲家としてのチャールズ・アイブス」
2. 一橋大学の米山高生教授から「保険ビジネスマンとしてのチャールズ・アイブス」

を披歴していただきまして、アイブスの二つの側面をご解説いただきます。

そして、実際の演奏としてアイブスの室内楽を演奏いたします

1. ヴァイオリンソナタ第4番 (10分)
2. トリオ (ヴァイオリン・チェロ・ピアノのための) (30分)

なお、本日は質疑の時間は取りません。ご質問があれば、休憩のときなどをお願いいたします。

携帯あるいはスマートフォン等はこの場で電源をお切りください

それでは、最初はアイブスのヴァイオリンソナタ第4番です
演奏者のプロフィールはパンフレットに記載されておりますのでご覧ください。